授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2507 号

明治種痘の研究-補完する種痘積善社と対立する種痘勧善社-

Research on Smallpox Vaccination in the Meiji Era: Shuto-Sekizen-sha, Which Complemented Tokyo's Vaccination Efforts and Shuto-Kanzen-sha, Which Was in Conflict with Okayama's Efforts

松村　紀明（まつむら　のりあき）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、近代的な医療システムの黎明期である明治初期の日本における種痘活動について、明治政府と岡山県の出した諸法令・布達を精査しつつ、難波立愿（経直）、中島友玄、大野松斎といった在野の医師側の関連資料を掘り起しながら、在野の種痘医たちが少なくとも明治 10 年代前半までは種痘結社をつくりながら独自の種痘活動を行っていたことを明らかにした、医学史的に意義のある論文である。 一般的に、日本の近代的な医療システムは、はじめて公衆衛生・医療施策を体系的に示した「医制」(1874(明治 7))、医師の免許や資格試験を定めた「医師試験規則」(1879(明治 12)年) などの一連の法整備に先導されながら進められていったと理解されている。しかしながら、近代的な医療行為のひとつともいえる種痘＝天然痘に対する予防接種は江戸時代から既に広く行われており、また新政府による種痘に関する法整備についても 1870(明治 3)年の「大学東校種痘館規則」、1871(明治 4)年の「東校中ニ種痘局ヲ設ケ規則ヲ定ム」、1874(明治 7)年の「種痘規則」、1876(明治 9)年の「種痘医規則」、などと動きは早かった。 本論文は、まだ未解明の部分が多い明治初期の近代的な医療システムの形成過程において、特に先行していた種痘システムの近代化の実際について初めて明らかにしたものであり、その先駆的意義は大きい。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。